

音楽科 指導方法の課題分析と授業改善策

	ア 指導方法の課題分析	イ 具体的な授業改善策	ウ 補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	<p>○変声期の特性に応じた発声に対する指導に課題がある。</p> <p>○音楽を形づくる基礎的な要素の理解に対する指導に課題がある。</p> <p>○音楽のよさや美しさを楽しみながら味わって聴き、感じたことを言葉で表現することができる力を養う。</p>	<p>○男子への発達段階を考慮しながらの発声の個別指導と校歌斉唱を取り入れた発声の指導を行う。</p> <p>○腹式呼吸を意識した発声の指導を行う。</p> <p>○強弱・リズム・旋律線・テクスチャの確認をする。</p> <p>○ジャンルを問わず多様な音楽に触れさせることで耳を育て、感じたことを文章として表現させる。</p>	<p>○自分や周りの発声、CDの音声、ピアノの音程に耳を傾け、腹式呼吸や声への理解を深めさせる。</p> <p>○友達と向き合い、確認をしたり、認め合いながら発声をする基礎的音楽要素を確認し、それをを用いて音楽表現に繋げていく。</p> <p>○オーケストラ鑑賞教室等で様々なジャンルの音楽を味わい、楽器への理解を深め、曲の背景や特徴を鑑賞文にする。</p>
第二学年	<p>○表現と鑑賞の領域をバランスよく配置する。</p> <p>○音楽の諸要素や構成、背景や歴史を理解しながら鑑賞し、自分の想いや意図、批評を言葉で表現する力を養う。</p> <p>○和楽器やアルトリコーダー等を通して、基本的な奏法を身につけ、楽器に触れる楽しさを養う。</p>	<p>○4領域の内容を関連付けた教材の作成と学習活動の工夫を行う。</p> <p>○表現や鑑賞教材として、自らの想いや意図を言語で表現できるワークシート作成や意見交換の活動を取り入れる。</p> <p>○個別指導やグループ活動を多く取り入れながら、楽器に対する苦手意識をなくさせるように繋げていく。</p>	<p>○学校行事や儀式的行事を通して音楽活動の発展に結び付けていく。</p> <p>○身体表現を取り入れた表現活動を多く取り入れ、表現の幅を広げる。</p> <p>○各楽器の特色や特性を知り、個別指導を通しながら、鑑賞マナーや所作を身に付け、全員が楽曲を演奏できるようにしていく。</p>
第三学年	<p>○多種多様な音楽を幅広く知り、これらを自らの音楽表現に生かせる力を育てる。</p> <p>○日本の音楽の歴史や伝統音楽に触れ、日本を愛好する心を育てる。</p> <p>○西洋音楽史の学習を通し、音楽の歴史や音楽の持つ力を理解し、音楽を深く聴き味わう心情を育てる。</p>	<p>○4領域の内容を関連付けた教材の作成と学習活動の工夫、他教科との関連付けを行う。</p> <p>○音楽が日本の文化の表現に深く関わっていることに気付かせ、歴史や伝統の中で音楽が人にもたらしてきた力を理解させる。</p> <p>○生涯にわたって音楽を愛好し、自分の言葉で表現、理解する力を育てるため、根拠をもって音楽を聴き、批評文を書かせる。</p>	<p>○学校の音楽行事活動の中で、リーダーシップとしての意識付けを通して、音楽表現技術の向上に高める活動に結び付ける能や伝統芸能を鑑賞したり、実際に体験することで、舞台マナーや鑑賞マナーを身に付けさせる。</p> <p>○CMやBGMで使われているような楽曲を取り入れ、多くの作曲を知り、楽曲に込められたメッセージや、背景を理解し、音楽の諸要素と関連付けられる力を養い、人の心に作用している音楽の力を気付かせる。</p>

